



< 総合評価方式 >

表1は、長野県のある地域での入札の結果です。この入札は一般競争入札で、総合評価落札方式（工事成績等簡易型）により行われています。総合評価方式ですから、最も安い入札価格を提案した会社が落札するわけではありません。この表1の場合も、落札したのは10社中6番目に低い価格を提案したF土建（株）です。この入札では、価格点に81点が配点されています。まず低入札価格調査制度により、(株)A建設及び(株)B重機は一定の基準により算出された失格基準価格（税抜）38,810,000円未満で無効（失格）になりました。そして価格点では、C土木(株)が最高点の81点を獲得しました。しかし、まだ落札業者は決まりません。この価格点に価格点以外の評価点19点が加算されます。価格点以外の評価点の内訳は、工事成績7点、工事実績2点、地域要件2点、社会貢献（除雪契約1.5点、小規模0.5点）、技術者要件（資格等1.5点、実績等1.5点、継続教育1点、電子納品0.5点）、建設マネジメント（労働環境）1.5点、合計19点となっています。価格点以外の評価点を加算すると順位が逆転し、F土建（株）が落札することになりました。「施工能力」中でも「工事成績」の重みをしみじみと感じさせる結果です。落札できなかったC土木(株)は悔しい思いでいっぱい

でしょう。F土建(株)とC土木(株)の価格点以外の評価点の差は4点(17.5 - 13.5)ですから、価格点の計算式(配点(81点) × 最低価格 / 入札価格)から総合評価点がほぼ同じとなる価格差を計算しますと、およそ204万円となります。失格基準価格を念頭に入札価格を決めなければならないことを考えるとC土木(株)の厳しさがうかがえます。

総合評価方式のタイプは表2のように4つに分かれています。市町村への導入が進むにつれ、特別簡易型の割合が増えています。したがって、工事成績等の施工能力の向上の必要性を痛感させられる場面が増えています。

建設会社にとっては「経審」によるランクづけは第一の関門ですが、気持ちは落札の成否を決める「施工能力の向上」に移りつつあります。

WISENET編集部 松村 清(税理士)

(表1)

入札経過書					
平成23年度	〇〇建設事務所	〇〇建設事務所	入札結果		
案件名称	平成23年度 地すべり対策工事				
予定価格(税抜)	44,340,000円				
開札予定日時	平成23-05-10 10:00 AM				
契約方式	一般競争				
入札状況	落札				
入札経過					
商号又は名称	入札書記載金額(円)	価格点	価格以外の評価点	総合評価点	備考
(株)A建設	37,650,000	0	16	16	無効(失格)
(株)B重機	37,690,000	0	15.6	15.6	無効(失格)
C土木(株)	39,390,000	81	13.5	94.5	
D建設(有)	39,680,000	80.41	16	96.41	
E機材(株)	39,690,000	80.39	12.6	92.99	
F土建(株)	39,780,000	80.21	17.5	97.71	落札
(株)G興業	40,500,000	78.78	16.5	95.28	
(株)H建設	41,000,000	77.82	12.5	90.32	
(株)I建設工業	42,400,000	75.25	17	92.25	
(株)J組	43,280,000	73.72	11.1	84.82	
落札者名	F土建(株)				
落札決定金額	41,769,000円	落札率	89.71%		
入札書記載金額	39,780,000円	立会人	〇〇 太郎		
5/100相当額	1,989,000円				
調査基準価格(税抜)	38,800,000円				
失格基準価格(税抜)	38,810,000円				
備考					
修正内容履歴					

(表2) 総合評価方式のタイプ 「地方公共団体向け総合評価実施マニュアル」より

高度技術提案型	⇒	高度な技術力を審査・評価 構造物の品質の向上を図る提案
標準型	⇒	高度な技術力を審査・評価 施工上の提案
簡易型	⇒	技術力を評価 簡易な施工計画の評価 施工実績等
特別簡易型 (市町村向け簡易型)	⇒	技術力を評価 施工実績等